

2023年1月吉日

健保だより 79

新電元工業健康保険組合
理事長 新関 清司

新年あけましておめでとうございます。

被保険者並びにご家族の皆様におかれましては、新しきよき年を健やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。

また、当健保組合の事業運営につきまして日頃より多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

健保組合を取り巻く状況は年々厳しさを増しており、2025年には団塊の世代が全て後期高齢者となることで更なる納付金の急増が危惧されています。昨年10月より一定所得以上の後期高齢者の医療費窓口負担割合が2割に引き上げられましたが、現役世代の負担軽減効果は不十分です。

少子高齢化にも歯止めがかからず、2042年には高齢者人口がピークを迎える一方で、国民皆保険制度の持続性確保のためにも、全世代型社会保障制度への転換が急がれます。

また、新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、医療提供体制の逼迫やデジタル化の遅れなどの問題点も浮き彫りになりました。こうした状況を受け、政府は『骨太方針2022』のなかで、医療分野のデジタル化推進を目的として「医療DX推進本部」の設置を明記し、昨年10月に発足させました。

本年4月からはオンライン資格確認を原則義務化し、2024年秋を目途に現行の健康保険証を廃止して、マイナンバーカードとの一体化を目指すこととなりました。合わせて、マイナンバーカードの健康保険証利用促進のため、医療機関等での導入加速化に向けた取り組みが強化されています。

更に、オンライン資格確認システムを利用した電子処方箋の運用も本年1月より開始となり、医療のデジタル化による医療費適正化、サービスの効率化・質の向上に向けた改革が進められています。

当健保組合も、データを活用した効率化・効果的な保健事業を更に推進して参ります。

皆様におかれましては、当健保組合が実施する各種健診や健康づくり事業を積極的にご活用ください。日々の健康づくりに留意され、医療費節減にご協力いただければ幸いです。

結びに、本年が皆様にとって実り多き一年となりますことをご祈念申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。

以 上